



Title	afraid of V-ing と afraid to V の特徴について
Author(s)	西原, 俊明; 西原, 真弓
Citation	長崎大学教育学部紀要. 人文科学. vol.63, p.53-62; 2001
Issue Date	2001-06-27
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10069/5801">http://hdl.handle.net/10069/5801</a>
Right	

This document is downloaded at: 2020-10-26T16:03:38Z

## afraid of V-ing と afraid to V の特徴について

西原俊明・西原真弓

### *Afraid* and its Complements : V-ing and to-infinitive

Toshiaki NISHIHARA · Mayumi NISHIHARA

#### 序

afraid of V-ing と afraid to V に関しては、学校文法では書き換え中心の指導がなされているのが現状である。例えば、(1)の場合、両構文をほぼ同じ意味合いで用いることが多い。しかしながら、いつも同じ意味合いで用いられるわけではなく、それぞれに好まれる解釈が存在する。

- (1) a. John is afraid to fly by plane.  
b. John is afraid of flying by plane.

この論考では、英英辞書、語法研究書、及び、言語学の先行研究に言及しながら、afraid of V-ing と afraid to V 構文の諸特徴を明らかにするとともに、両構文に好まれる解釈について考察し、それぞれの構文に見られる意味的特性について考察する。

#### 1. 辞書における記述

ここでは、afraid of V-ing と afraid to V に関して、代表的な学習者辞書としての英英辞書をいくつか取り上げ、どのような記述がなされているのかを概観する。先ず、Oxford Wordpower Dictionary (1993) から見ることにする。この辞書では、問題の構文に関して、次のような説明と例文が与えられている。

afraid (of doing sth/to do sth) having or showing fear ; frightened :

- (2) a. She is afraid of going out after dark.  
b. I was too afraid to answer the door.

上の説明と例文からでは、問題のふたつの構文における違いをみてとることは非常に難しいと思われる。(2)に挙げられている例では、(3)に示すように、対応する形がそれぞれ可能であることから、この論考で取り上げている構文が、常に同じ意味で交換可能である

ようにも解釈できる。しかしながら、(2)(3)では意味合いが異なるので、何らかの記述を要すると思われる。

- (3) a. She is afraid to go out after dark.  
b. I was very much afraid of answering the door.

次に、Oxford Advanced Learner's Dictionary (1995) での記述を見てみよう。この辞書では、次のような説明がなされ、(4)の例文が与えられている。

feeling fear ; frightened of being hurt or of something in some way

- (4) He's afraid of going out/to go out.

また、別項目として、この辞書では、次のような説明と例文が afraid of V-ing に関して与えられている。

of doing sth ; (that)... feeling worry or anxiety about a possible outcome, effect, result, etc :

- (5) I didn't mention it because I was afraid of upsetting him.

上の説明と例文を見る限り、英語学習者は何か好ましくない結果をもたらす事柄について心配をする場合に afraid of V-ing を用い、その他の状況では、同じ意味で afraid of V-ing と afraid to V のいずれの構文も用いることが可能であると理解してしまう危険性がある。しかしながら、ある状況が与えられると、(6)の例文も可能であり、(5)(6)の違いをとらえる何らかの手立てが必要になる。

- (6) I didn't mention it because I was afraid to upset him.

後述するが、(5)(6)の場合、(5)が一般的で、(6)が容認されるためには、話者の意志・意図 (volition) が深く関わってくることになる。

最後に、COBUILD (1987) を見てみよう。COBUILD では、次のような説明がなされ、(7)(8)の例文が与えられている。

If you are afraid to do something, you are frightened because you think that something very unpleasant *is going to* happen to you.

- (7) I'm still afraid to sleep in my own bedroom.

If you are afraid that something unpleasant *will* happen, *you are worried that it may happen and you want to avoid it.*

(8) The government is afraid of losing the election.

上に挙げた COBUILD の説明では、斜字体の記述に注意する必要がある。afraid to V の説明では説明文に be going to が用いられていることから、動詞によって表されている出来事が発話の時点で迫っているということがわかる。例文(7)と afraid to V の説明では、自分の部屋に関して寝ることが差し迫った状況にあり、しかも、そこには、「寝る」という行為を既に想定した話者の意志が感じ取れる。一方、afraid of V-ing では、説明文に will が用いられ、後続する説明文と照らし合わせて考えると、ただ単にあることが生じる可能性があり、そのことを心配しているのと同時に、できればその事態を避けたいという心理を表していると解釈できる。

既に見た英英辞書とは異なり、COBUILD では、かなり詳しい説明が与えられていることがわかる。しかしながら、COBUILD による説明では、(7) (9) と (8) (10) の対比をとらえることはできない。学習者にとって、(7) (9) のニュアンスの差異、(10) の非文法性をどのようにとらえるべきかは示されておらず、明らかではない。

(9) I am afraid of sleeping in my own bedroom.

(10) \*The government is afraid to lose the election.

## 2. 語法書・文法書における記述

### 2.1 偶発的な出来事

Swan(1995)では、「思いがけなく起こりうる出来事」に関して、何かの恐れ、心配を述べる場合、be afraid of V-ing 構文が望ましいという主張がなされ、次の例文が挙げられている。

(11) a. I don't like to drive because I am afraid of crashing.

b. Why are you so quiet? I am afraid of waking the children.

(11)の例については、Oxford Advanced Learner's Dictionary における別項目の説明と COBUILD における説明と同じものであると言ってよい。これらの説明では、afraid of V-ing が用いられる状況が与えられているが、afraid to V を用いることが可能かどうか、可能であれば如何なる意味上の差が認められるのか定かではない。

(12) a. I don't like to drive because I am afraid to crash.

b. I am afraid to wake the children.

(12)から明らかのように、実際には、afraid to V の形も容認される。ただし、(11)が意

味するものと(12)が意味するものは異なるという事実に注意したい。これらの違いについては、3節で触れることにする。

## 2.2 afraidの意味内容に基づいた分類

Declerck(1991)では、これまで見た英英辞書の記述や語法書の記述とは異なり、*afraid of V-ing*と*afraid to V*が、どのような場合に交換可能であり、また、どのような場合に交換不可能であるかを*afraid*の意味を下位分類することで捉える試みをしている。

In the sense of 'frightened' both *afraid of* and *afraid to* can be used.

- (13) a. I'm afraid to touch/of touching a spider.  
 b. He travels by train because he is afraid to fly/of flying.  
 (Declerck (1991 : 516))

To express that fear inhibits the subject from doing something we usually use the infinitive.

- (14) a. Mother was afraid to contradict the stranger in case he became angry.  
 (=Mother chose not to contradict him for fear he might become angry.)  
 b. I'm afraid to go into the street at night. (=I prefer not to go into the streets when it is night.)  
 (Declerck (1991 : 516))

The idea 'worried or anxious about the possible result of something or about what might happen' is expressed by *afraid of* :

- (15) a. I don't like to use appliances that I am not familiar with because I'm afraid of damaging them.  
 b. Whenever he is drunk, his wife is afraid of being molested by him.  
 c. I didn't tell him about the accident because I was afraid of upsetting him.  
 (Declerck (1991 : 516))

上に挙げた*afraid of V-ing*・*afraid to V*に関するDeclerckの説明をまとめると、次のようになると思われる。

- (16) i. *afraid*がfrightened(おびえている)という意味を表す場合には、両構文が可能である。  
 ii. 主語位置を占めている要素が表す人物が、ある恐れをいただき、その恐れのために何かをできない場合、通例、*afraid to V*を用いる。  
 iii. 何か好ましくない結果や出来事を心配する場合、*afraid of V-ing*を用いる。

(16)における(i)(ii)では、それぞれ afraid to V, afraid of V-ing が用いられる望ましい状況について述べている。しかしながら、これらの説明では、次の例に見られる意味の違いについて理解することは困難である。

- (17) a. I'm afraid to go into the street at night.  
b. I'm afraid of going into the street at night.
- (18) a. I didn't tell him about the accident because I was afraid of upsetting him.  
b. I was afraid to upset him.

これまでの議論から、英英辞書、及び語法書では、afraid to V と afraid of V-ing の用法に関して、それらが用いられる好ましい状況についてある程度の説明が与えられていることがわかった。また、両構文が可能な場合、意味的相違点が十分にとらえられていないことも確認できたと思われる。次節では、意味的な観点から両構文の特徴を明らかにしたい。

### 3. 意味的特徴と統語的特徴

#### 3.1 主語の意図 (volitional intention)

afraid to V と afraid of V-ing の意味的特徴に関して、Goldberg (1995) が引用している Wierzbicka (1988) から見てみよう。Wierzbicka によれば、afraid to V が用いられる場合、そこには、あらかじめ「～しよう」とする主語の意図が存在するとされている。<sup>1</sup>

- (19) a. #I am afraid to fall down.  
b. I am afraid of falling down.

(19)で用いられている動詞 fall は、通例、自分の意志でコントロールできない(non-self controllable) 行為を表す。したがって、(19a)は、「自分である所から落ちてみよう。」とする意志が存在し、何かの理由でその行為に及ぶことをためらっている場合に容認されることになる。例えば、バンジージャンプを試みようとしているが、いざジャンプをする段階になって、あまりの高さに体がすくんでしまっている状況等が考えられる。この主語の意図という視点は、afraid to V と afraid of V-ing の容認度を考える上で有効的であると思われる。次の例を見てみよう。

- (20) a. \*The government is afraid to lose the election.  
b. The government is afraid of losing the election.
- (21) a. \*I am afraid to get lost.  
b. I am afraid of getting lost.

- (22) a. # I don't feel like driving because I am afraid to crash.  
 b. I don't feel like driving because I am afraid of crashing.

(20a)が容認されないのは、はじめから選挙に負けようと思って選挙に臨むものはいないと考えられるからであり、同様に、(21a)(22a)が容認されないのも、はじめから道に迷うこと、クラッシュすることを意図しているものはいないからだと言える。<sup>2</sup>このように、afraid to Vが容認されるためには、主語の意図・意志が背景に存在する場合であると言える。但し、afraid to Vにおける主語の意図というのは、「ためらう」「心配する」という感情が存在する、ある特定の時間と密接な関係があることに注意しなければならない。次の例における副詞語句との共起制限は、このことを示すものである。

- (23) a. Don't be afraid to ask for help if you need it *now*.  
 b. Don't be afraid of asking for help if you need it *from now on*.
- (24) a. He is afraid to leave *until* his mother comes.  
 b. ?? He is afraid of leaving *until* his mother comes.
- (25) a. I am afraid to cross the road *when* it is in this icy condition.  
 b. ?? I am afraid of crossing the road *when* it is in this icy condition.

afraidで表されている主語の意志・感情がある特定の時間と密接な関係があるということは、主語の否定的な心的態度が基準時として選ばれた時間に基づくものであることを示している。つまり、これは、afraidの対象となっている行為が、別の時間帯では行われることをも意味する。したがって、主語の否定的な心的態度が表された行為に関しては、実際に行われる場合もあれば、行われない場合もあることを意味する。次に挙げる British National Corpus (BNC) からの用例(26)(27)は、このことを支持するものである。<sup>4</sup>

- (26) a. I was afraid to leave Edinburgh, even momentarily, in case there was word from the War Office, but in September 1944 my mother *persuaded me to go with her to Bedford for a short holiday*. (BNC)  
 b. *At first* Johann was afraid to speak, *but then he began to talk*. (BNC)  
 c. For a few years *at first* Joseph was afraid to come down upon the Nez Perce reserve-afraid of the surrounding whites and because of the many indictments against him- *but this fear wore off*. (BNC)
- (27) a. She was afraid to look around, but the other housemaid was ready to carry soup bowls to the table and *she had to do the same*. (BNC)  
 b. She ached to comfort him, but was afraid to touch him, *in case it was the one last thing that was too much*. (BNC)

(26) (27)の斜字体で示された部分から、(26)では実際に否定的にとらえていた行為を実際に行ったこと、(27)ではその行為を行っていないことがわかる。

不定詞により表現されている主語による心的態度が否定的にとらえられている事実は、通例、否定表現とともに用いられる否定極性表現 *any* が問題の構文に現れることから支持される。

- (28) He didn't know how to stop her and when she did stop by herself, when they got to the junction and had to change trans, he was afraid to say *anything* in case she started again, and so he said nothing. (BNC)

次に、主語の意図・意志という観点から、(29)の容認性を考えてみよう。

- (29) a. I was afraid to wake/offend/hurt the children.  
b. I was afraid of waking/offending/hurting the children.

(29a)の例では、主語の意図が前提となる解釈がなされる場合に容認されることになる。wakeの場合を例にとると、主語である私にあらかじめ子供たちを起こそうという意図が存在し、何らかの理由でその行為を思いとどめ、心配していることになる。他方、(29b)では、必ずしもそのような意味合いはなく、常々、何かの行為に関しての心配をしている状況にあるということを述べている。(29b)に見られる「恒常性」については、以下で詳しくふれることにする。

これまで、afraid to Vにおいて、主語の意図の存在を明らかにした。次に、afraid of V-ingの場合は、主語の意図に関しては中立的であるという事実を見てみよう。

- (30) She asked me to come with her because she was afraid of going there on her own.  
(31) Well, I want to...  
Don't be afraid of saying what you think.

(30) (31)においては、意味内容から主語の意図がくみとれる。しかしながら、いずれの例においても afraid of V-ing が用いられている。したがって、この例から、主語の意図に関しては afraid of V-ing は中立的であると言ってよいと思われる。勿論、(30) (31)の例は、afraid to V を用いても何の問題もなく容認される例である。

### 3.2 恒常性と予測

afraid to V と afraid of V-ing 構文においては、主語の意図という点において、中立かそうでないかの違いがみられ、その違いが容認性を決める一要因になっていることがわかった。次に、両構文の違いを論じる場合に必要となるもうひとつの視点、「恒常性」(chronic state) という視点から両構文を考察することにする。



- (32) a. I am afraid to fly by plane.  
 b. I am afraid of flying by plane.

(32)の例においては、いずれの例も二通りの解釈が可能である。(32b)においては、「常々、飛行機を利用しての移動を恐れている。」という解釈と、「何か利用機材に関してのちょっとしたトラブルのアナウンスが流れ、怖いな。」という感情をもっているという解釈が可能である。しかしながら、(32b)における第一次的に好まれる解釈は前者である。他方、(32a)においても同様な解釈が可能であるが、好まれる解釈は、ある特定の状況において恐れを抱いているという解釈である。勿論、これらの好まれる解釈の違いの他に、先に述べた、主語の意図性についても違いが見られることは言うまでもない。

最後に、主語、または話者や第三者による「予期・予測」という視点から、afraid to V構文を見てみたい。

- (33) # I don't feel like driving because I am afraid to crash.

- (34) a. Don't be afraid to make mistakes.  
 b. Don't be afraid of making mistakes.

主語がもつ意図性という視点から考えると、自分で好んでクラッシュしようと思う人、間違いをしようと思う人はいないと考えられるので、一見すると(33)(34a)は、容認されない文のように思える。しかしながら、(33)(34a)が容認されるという事実は、主語の意図ということだけで問題の構文の容認性が決まらないことを意味している。(33)、及び(34a)が容認されるのは、第三者や主語による「予期・予測」が可能かどうか因るものと思われる。(33)では、クラッシュするのを回りの人も予測し、自分もそのような予測をしていて、主語である私自身もそのことを恐れているという解釈が可能であり、この解釈を受ける場合にのみ容認される。また、(34a)も同様に、間違いをするのではないかと予測を聞き手自身が想定している読みの場合にのみ許される。他方、(34b)では、このような特定の解釈を必要としない。

#### 4. まとめ

この論考では、afraid to V と afraid of V-ing 構文の特徴を英英辞書及び、語法書等の記述に言及しながら考察した。また、両構文の容認度を考える上で、両構文がもつ意味的特徴が重要であることを論じた。この論考で論じた意味的特性は、主語の意図、恒常性、予期・予測という三つの意味的特性である。これらをまとめると、次のようになる。

(35)

	afraid to V	afraid of V-ing
volitionality	+	neutral
chronic state vs. a particular instance of fear	( i ) chronic state ( ii ) a particular instance of fear preferred reading = ( ii )	( i ) chronic state ( ii ) a particular instance of fear preferred reading = ( i )
predictability	+	neutral

## 注

小論をまとめるにあたり、貴重な御意見をいただいた Thomas Wasow 先生に感謝の意を表したい。

- 1 動詞 frighten が不定詞をとる場合にも同様のことがあてはまる。詳しくは、西原（準備中）で論じることにする。
- 2 (22a)が容認されるためには、主語の意図性ではなくて、予期性が関与している。後述するが、主語自身による予期、または、第三者による予期が可能な場合にも afraid to V が容認される。
- 3 Thomas Wasow (個人談話)によると、劇の登場人物が、常々、ある場所を離れることを恐れていて、母親の到着によってその気持ちに変化が見られる場合、(24b)は容認される。つまり、恒常性の解釈を想定できる場合には許されることになる。
- 4 persuaded NP to-不定詞の場合、一部の辞書等では「～するように説得する」という解釈が示されている。persuade が過去形で用いられ、この形をとる場合、「説得して～させた」の意味で用いられる。つまり、行為の結果が示される。次の対比は、行為の結果が含意されることを示すものである。

( i ) I persuaded John to go there, so he went there.

( ii ) \*I persuaded John to go there, but he didn't go there.

- 5 統語上、否定表現が存在しなくても意味内容が否定的である場合には、否定極性表現が現れることがある。例えば、動詞 deny に後続する that 節では、母型文の動詞が統語上否定表現でなくても any 等が補文に生起できる。

### 参考文献

- Declerck, Renaat (1991) *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*, Kaitakusya, Tokyo.
- Goldberg, E. Adele (1995) *A Construction Grammar Approach to Argument Structure*, University of Chicago Press, Chicago.
- 西原俊明 (準備中) 『Afraid と frightened の統語的・意味的特徴』
- Swan, Michael (1995) *Practical English Usage*, Oxford University Press, Oxford.
- Wierzbicka, Anna (1988) *The Semantics of Grammar*, John Benjamins, Amsterdam.

### 辞書

- Collins COBUILD (1987)
- Oxford Word Power (1993)
- Oxford Advanced Learner's Dictionary (1995)

### Corpus

British National Corpus